文恭院實紀

二十七

寛政十一年己未七月
自
至十二月

内閣文庫
和書
類 三六〇六四
號 五五
冊 二三一
函 一四
架

内閣文庫
和書
類 三六〇六四
號 五五
冊 一四九
函 一
架

内閣文庫
番號 和 36064
冊數 55 (27)
函號 149 36

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政十一年己未　従七月
至十二月

文恭院實紀

二十七

国立公文書館
National Archives of Japan

文恭院実紀巻二十七　　寛政十一年七月より十二月まで

七月朔日月次相撲催のため一位殿将軍出
御三宅備前守康友大久保山城守忠真分部左京
亮光実土方大和守義苗永井信濃守直方坂城
加番まつまつ出て時務の外土井能登守利見能登守の
いとまつまつ和泉守忠喬民部少輔忠成
見へまつる大番頭前田若狭守利保中坊河内守房
看坂城の成まつる　時雨殿与所番士小田一

二日去一日二十五日近衛右大臣経凞公薨ず
きしかハ者ふすり
御所御喪ふ経凞公ハ父君
なきハなり
三日端午ハ府服ぶくまし三家のうち
のうち水戸ハ東本願寺ハ西本願寺を
ひ給ハ堂ハ本山を守ぶ書面を行ふ准し
うふ奥詰儒者成瀬右八郎和昇老免して小普
請ハ入り廣重を御ふ

四日つ出して七夕の西祝として二種ハ
いうき家書院番ハ谷伊勢守像設貴子九
つもしめ父死して家つくるの四人
五日西堂切ハつ番の内林四郎右衛門善長老免
て小普請ハ入り廣重を御ふ
六日七夕のかとして例のごとく鯉料理大
番頭五郎左衛門正一同一与内ハ新ふ
きの御定方ハ家内能五人ハ本大雷子の牌より

大電院殿

七日佳然院のめし

八日東慶院

浚明院殿霊廟より杉平伊豆守代参れ

九日小姓衆箱根宮観小納戸へ預さる

十一日小普請奉行石野筑前守能光紅葉の

台潭院殿霊廟より雲花門その他所後の通り

ふたつ時御使ふたの御使物差下り

十二日三縁院

惣信院殿霊廟より戸田采女正氏教代参れ

十四日紅葉山

諸廟日待あり又東慶院

玉心院殿霊牌所より例本山大和尚春秋代集

凡

十五の盂蘭盆ゝ寺内へ施物つかはさるる

例のめし日門上寺盆料ゝ来れ

清雲院へ附ふ〳〵三篇科としておされその他
〳〵附服をゝゝふ
十六日上野國小幡の領主松平玄蕃頭君福卒
八幡ふ〳〵にその嫡孫内匠君惠をして送侯二
万石をたゞしむ六の君福八有馬備中君姪う
男なして寛廣五年四月十五日和兄しその
後五位ちよ教し為朱女ゝと孫し明和五年十
二月二十ゝ日ゝ薨封し安永三年十二月二十ゝ日

奏者番をゝ日ゝ一五年十二月ゝ玄蕃頭ゝ改
称し天明五年十二月二十四日西城少老をゝ明
の年閏十月新ゝ本城の新をゝ日ゝ八年四月
十ゝ日辞職し寛政十一年五月辛ゝ百辛ゝ五十
八篇西例平岡養快ゝ頼生八篇年譜研ゝ千
石の加恩あり実祖三千石をゝ新宝を拝領
実祖ゝ久面ゝ回しゝ日ゝ加恩五百石
給て千百石の実部をゝ

十七日 紅葉の
御宮より西田果女氏教代参ス
二十日 西塔西例岩本内侍正利供ス
大納言殿より
基の上より水菓子さゝき西出中を頂戴ス
小十人ハ准一奥様侍従殿ゟ助国亟大蔵様ハ
すゝみ三十人口ゟ
二十三日 南蛮小蒙様より中奥番ハ入ル もの四人
尾紀白三位より
基の上西起庵を候し林檎一籠つゝをくり
ル
二十四日 東慶寺
高恭院殿霊廟少庵京極備前守久代義
二十六日 宇治孝教朝子大学教長
高氏ゟ後和し小蒙新九郎廣穀貴子小姓
紅彩十郎廣勝 有小蒙様ゟ紀和し天野四郎

当康幸孫伊豫康和さしめ父孫仕して子孫つ
くもの三十一人新九郎庚穀八書花の料三百苞
給ふ日光門主より献りあり
御墓所の西表を何ふこの日より奥味解き
さる
二十八日月次の相撲伽の如一本多隈落康
匡姫免系親三人杉平内給恵封徳を謝し
献物行り使者仁賀保孫九郎誠胤書院番組坂寄
合衆出家大坂目付より、毛附給ふ伽相伽より回
し新書書木又四郎義英老免して小姓より入
康定親より
二十九日
大納言殿より
墓の上より魚を送る寄せ使ハ西側杉平佐渡守
康道寺八郎
八月朔日酉於日光同しこの日奥はして傳居林

大学殿御衡法護神あり〻〻り阿弥三奥右衛門
殿近藤吉左衛門孟々西撰木戸上り〻り回
那二紹ふこの日の朗より初鮭一尺を〻〻き
二日尾紀水三々水世子（雲在を御ふ流川右黄
つゝ小鯉供して鶴小
三日父死して家つくものの十人
四日供番して杉平武右衛門重昌始め十二人（雲
者を下さる

五日供番して杉平大猪大夫高房始雲在御ものの
五人
七日四郎右衛門杉平伊勢守近云西丸新番殿は
准さる也小納戸を殿原し免し　押田豊後守縁融
共は同城小姓組番殿は准さる也奥は在〻〻と
あり小納戸殿は根来内猪正長郷四郎右衛門の家老
とあり美濃郡代新木門三郎正徳勘定吟味役と
ある奥は屈右衛門重在をみる

八日東叡山
浅草院殿霊廟より右四位中将資費代参に
九日小普請より納戸より入番の二人宛の日備
中国笠岡の鉄主木下清左衛利鬼宛の四月参勤
の路より江戸へ参る子ども雪一しきに
致仕為致遣ハ情あり一しきれとその所
鉄二筋五名をハその子宮内少輔利徹へつゝし
めゝ遣別墅へ罷うしきるこの利鬼ハ右衛門
少輔利忠の子より江戸へ明二年十二月初日初入
一きり回一四年七月家つぎ五年の内叙爵
て淡路守と改称し享和元年五月十六日三千五百
ゝ給りね
十日けさ西例平同義濃守殿へ大成殿へ太
刀金を贈ゝる
十二日三郷山
情信院殿霊廟へ松平保豊信明代参に小姓

所有大酒伊豫守義元小納の事所存らしむ又
尚藥又智ふ多紀おもて元曾吉田快菴相撰ま
尚藥爲さるる
十三日尾張亜相のもとより松平伊豆守信明もて
淑姫のあこの十一月入輿有へくしら仰せ
きしかい亜相よりの御老臣まつ
退てるる
十四日西城小姓組与所松平源義宗西城先
弓頭とある書院番与所松平伯耆守忠名
廣をもて硯を允さる
十五日月あをの相賀伯のの一淋姫君入輿の
事仰出されしるる紀ノのうるる使番すお
伊掃部所並中ハしるる奏者ハ人堀田大藏大輔正
順もしめ勅封の所しるるの十人松平仙千代
康人もしめてるる使番蜂屋七兵衛宣賢
駿城目付ささいきいとまみふ御相伯のまま

りの郎
墓の上に初冠を置き
十七日紅葉山
御宮に太田備中守資愛代参し
十八日堀上守伴部羅後鴻巣孫曼守佐成し
二十日東叡山
心観院殿霊牌所に太田乗女正氏教代参し
二十万安藝国廣島の城主松平安藝守晟

病により致仕してその子右京大夫高晟に其
所領四十二万六千五百石餘をつがしむ其の主
晟八百安藝守宗恒の男にして幼名を若次
郎といふ寛延七年二月十四日にして父に
り同じ八年の十一月二十八日御家を継ぎて官位
を加へ正四位下上総介に叙任
しのち安藝守備後守に改め同じ十三年四月
十三日にしてして純封のいとまを給ひ明の年朝

解人来朝ニ付仮住居ニ成申候明和
元年の閏十二月十八日侍従ニ成申候同ニ四年
の正月二十九日関東川渠澄利の助役を勤る同
ニ六年六月十五日助役勤ニ付時分三十
拝領ニ家士ニ領地ニ成永七年四月二
十日日光山
御宮修理助役仰付ル同ニ八年十二月朔日
助役を勤ル時分三年下ニ領ル家士

当又同ニ天明六年十二月六日関東川渠澄利の
助役を勤ル時ニ五月朔日同ニ勤ル
時明ク三年ニ成ル家士迄領地有て寛政
二年の十一月二十七日歩将ニ任ニ成ル東叡
三縁山の火事為ニ見回ニ十一年八月二十
一日致仕ニ成の年九月四日傷寒ニ成の文化十
年閏十一月十八日廣島ニ成ル
七十歳

二十四日東叡山
孝恭院殿霊廟より少老立花出雲守程国代参
書院番杉平助大夫宗真同道与附添家
二十七日光門主帰京ゟ戸田
采女正氏教教西城ゟ八の野出羽守友之
慰労ゟ又高家横田豫河守貞臣もて蒲萄
一籠ゟ献ゟ
乃ほうまて西岩西を同道ゟを仰付ル

ゟ
二十八日高木書院より出し日光門主西岩西行
り門主太刀金馬代ゟ行和二十巻白鑑一帖を
ゟ坊家家士等ゟ面会ゟて見ゟ門主
ハ西湖の百ゟ郷食ゟ弾碁博交代者合
山海主税助義近及寺合医上領玄頂利琴
ゟ
九月初日月番ゟ杉平右京大夫

高貴家つよしとなり太刀金拵まで把る刀備
中國名廣然し御しまを松平山城守行愛石
川中務大輔従般近江守直起本多大和守居
大坂加賀もて備前守木甲斐守一貞寄合高
荷主殿三美上田弥右衛つ義茂八郎城加賀の所
うまを場和八伯のまを坂城成様ま在し大
番所市橋下総守長昭備前守乃ひ番士も
同し

二日重陽の佳節として三家の方々始め万石以
上面々御登城ありより供奉をら
まを西城つを同し小普請医海川春道元俊
日光門主発山まより美濃の守名まを
三日淋姫天の入輿より秋元但馬守久朝の資
装ひして文箱五を献まを
四日父死して家つくものの十三人淑姫天の入輿
まより西国筑前守多羅正大弼右

蓮ちりめん邪鉄五つ酒并左右つ尉六位行器
五荷阿部伊勢守正倫多葉粉盃三面酒并雅楽
頭右近将監藤原朝臣右近将監右馬長
目錦第五稲葉丹後守正福挾第一対南都大僧
大夫利教長文第五をの〳〵供奉せ
五日吹上の花園はゝ〳〵より一神社
郡〳〵巡〳〵さ〳〵ふ
六日近江園水口の城主加藤信濃守陳濃よ
り該仕の諸先ゝ〳〵その子紹鷗宗明先をして所
領二万五千の石を賜し此明陳殿伊勢守明光う
津ゆり実ハお換宗明源う三子幼名弱丸又孫七
郎といふ明和六年五月二十五日翁ゝ〳〵より安永
五年十二月朔日もしあて拝領〳〵ありてのち叙
爵して紹鷗宗と改め同〳〵八年十二月二十日
坂桃園院前御〳〵ゝ法の般舟院勅書前を〳〵
寺同八年二月十三日

御所向炎上ゟ書添ゟ寛政二年十月五日
西園寺相国ゟ御巻の白鳥の袋物ゟ同一
六年四月二十三日関東筋川渠浚利助役為ゟ
ゟ十月十五日助役としゟ呼ふく物ゟ家
士当ゟ物相ゟ同十年六月十四日外様四の
藩ゟ書ふ殺仕一文化五年十月八日車代家
四十七淑姫天正頃ゟ松平大猶大夫高方
ゟ純子為和多書言嶷純子内堅帯一筋帳
を多ゟ代
七日為和多書言嶷ゟ純帳一張同ゟ代
て秋ゟ
八日東叡山
浅草院殿霊廟ゟ詣ゟ又同一山の
厳有院殿霊廟ゟ為為記書信成代来
九日菊節の使係規ゟ同一
十日

常寳院殿霊廟ハ太田備中守資愛代系図家
六角堂殿阿彦畔日光山
西宮代系伊戸田大炬阿弥陀寺祭祀の事行はせ
給いとゝ行ふ物仰よりて杉平伊豆守信明
明のとゝ
大猷院殿五千回忌法会恩賜命ぜらるゝ日
門つもこの日伊豆守信明して伺ふ
十一日尾張大納言宗睦卿慥千代君より
同じ西窓面竹り慥千代君首尾加へ
ゝゝ給ふ高敷を称ぜらるゝ後三位中将ハ敕使
ゝゝ家より金三枚也拍十倍前清光の太刀馬
資金二枚然りとも謝ぜらるゝ更ハ窓面ぜ
給ふ盃を給ぜらるゝ高敷ハ八度即の次第
流をつかはさるゝ同じくに尾張より二種
中将の方より二種下賜ず邦十枚聖廟院尼尾張宰相
治部卿の方より二種下賜ず謝ぜらるゝ祀

睦

一疋を献り大納言宗睦卿より仏前二十把

[illegible]同じく[illegible]の日杉平越前
守重冨屏風三雙杉平獅子大獅子唐獅子花杉
平大学頭彩亮手拭掛三通杉平左京亮督任成
浅黄ちりめん五巻杉平安藝守冨貴浅黄羽
二重十疋杉平右三郎兵衛廣綱百把之花左近
将監鑑寿かろうと一袋杉平飛騨守利考紅白
ちりめん二十疋杉平甲斐守光保蚊帳二張榊
原式部ち輔政毅源氏相語文川方相語大和
相語住吉相語竹取相語を淑姫天正貴裝として
献ず
十二月三緣山
惣住院殿霊廟ち杉平伊豆守信明代参ス
十三日淑姫天正御法事ちり〳〵ふ〳〵ハ杉平
右兵衛督治ゆきより小尊冨二通杉平紀伊守治義薫
唐櫃空炷櫃杉平阿波守治昭有馬中務大輔殿
共上杉弾正大弼治廣ゆ掛盤一通小乃具共細

川越中守斉茲猫足絵郡二十人前松平大和守並
恒掛盤一通 小笠原具共 佐竹右京大夫義和句梱
一通 冠梱一宗 対馬守義功長文弟五位達遠江
守村寿小袖單衾一通 松平上総介斉政掛盤一
通 小笠原 松平出雲守利謙食籠五対 松平仙
千代康人紅倫子十五巻 松平下総守忠和守梱一
通 酒井侍従大夫忠実提重三組 又奥よりて
松平伊豆守信明 淑姫実は入輿の節 戸田
采女正氏教 仕出前 長谷川伊勢守貞信妹 貞姫
立花出雲守種周 供奉前ゝ
十四ヶ
文昭院殿霊廟より 前 対馬守信成代参
清揚院殿霊廟より奏者 有馬左兵衛佐誉純
代参 佐竹左近将監 佐竹西丸切手門
番の所とある
十五日 あと 御の ― 松平弾正大弼 徳川養

子亀ゝ助義居初ゝ池田信濃守改直系
親一松平山城守信古水多大和守右居能対の所
ハ
十六ヶ寺社の寺行横村勝阿弥家長勅宣寺行
中川飛騨守右英国付矢部彦五郎宣令代久右
左京信近八日光山
大猷院殿法華の子ハ一ゝ家ゝ目付
横田十郎兵衛延松八淑姫夫入輿の子ハ

回一子ハ資性ゝ書ハ松平出羽守高宣
翠巖屏風便屏風各一双松平銀ゝ軸盆一通
巻物双紙一函牧野備前守右嫡松平右京亮輝
和子ハ移る把城田大蔵大輔正頼用簞笥一松
平出雲守懐剣小道具ゝ
日小普請ゝ西城御物方ゝ
十七ヶ紅葉山
内宮及

諸廟より沓あり

十八日越前福井の城主松平越前守重富致仕し

その子伊豫守治好ゝて家つゞしめらるこの重富

八

この日三家の方々口切茶を名々ゝ点ずる

侍は同じ淋脇夫内資裝として紀伊中納言治

寶公は廚子黒桐書棚各一通ゝの戸中納言治保

公は茶子一鍋風呂茶筅茶巾各一通

紀伊黄門重倫公より紅白大紋綸子二十巻水

戸中將治紀公二枚折屏風二雙屏風一雙は御

使として[illegible]又松平加賀守治脩掛盤は

小道具添銀砂鉢三枚平紀侯守容頌井伊掃部

跡也中村平隠守宗国村平出作守宗茂共
子掛盤ヨ小道具ヲ〻村平越中守宗信長日録
第五村平微守秋信千種香香盆香
巻村平設千代ちりめん幕三対村平左兵衛
佐亜間大中小の廣蓋同しくさ〻ら日奥能
書組ハ弓八幡敦盛兜衣紅葉狩花筐稽古船
矢度ちり羽衣ハ
御所ものを絵ふその他ハ奥能のもの所作ちり

狂言ハ未度ちり不毒花子鬼罪人不学座
跡
十九日吉川和三郎毛せん五枚ちり
二十日東叡山
大猷院殿
有徳院殿霊廟ヨ太田備中守資愛代来ル日
光山代参仕ル家六角主殿頭廣時回し山の
祭祀ヲ行ふ戸田大炊頭忠喬うくり渡す大番与頭

金田小右衛門通り雲より遣しまゐらし小普請より入
らる日光山釋迦堂別当妙道院同し山の塔所
源學院法住權僧正より住まゐらる
二十二日留守居河野助右衛門通義成所
右敬曲渕甲斐守
累家大目付杉浦越前守信程後間用人中務伊
豫守敬留守居書河野助右衛門通義成所
古義成延目付横田十郎兵衛延杉坪左源八郎
成定羽太左右馬之助信佐久間左京信近渡邊
久義紀大学大次郎公員淑姫夫人入輿つゝみ供
奉為まゐる又留守居書山田源左衛門利住同し
ゝ御供為まゐる
二十四日三緣山
台德院殿靈廟殿杉平伊豆守信明代参し東
叡山
孝恭院殿靈廟ハ少老堀田摂津守正敦代参し
日門山まゐらせしつ八幡宮中條河内守信

義して問さるる
二十五日王子の追放願さるる所答藩五相
日光門主供して墓参をなさるる
二十六日吹上庭園まで新番大番の士大的
祝さるる射手四十七人褒賞のもの
二十九日日光門主のお内西あり留守
居曲渕甲斐守景露小普請奉行石野筑前守
鞆竜渡岡長尉その他御理をなしまする時
御又重ねて御使番長谷部主殿助
一本月内祈禱料にて八幡宮の規式同し
三十日三縁山
有章院殿霊廟へ安藤対馬守信正代参す
十月朔日松平伊与守治好家つぎを謝し
相馬千秋す細川越中守立政神式にまる仕者
内藤主三郎右衛小姓組長崎弥七郎助元居仮
城目付にて帰国内藤能登守政璟三河国

矢作橋助役つとめまゐり時ふくを給ふ

二日ハの東亥日の住係規ハ同し

三日三緣山ハして貞恭院殿方紀伊中納言治宝ハ北のゝ種姫

天正の七回法華経百越まゐり者尊馬書信成

して紀郎ハ書資紀三十段西堀より八ノ郎右衛

書者なして二十段後閑ゝり八十段ゝ立まま

うの行き謝ト中ハ家ハの日夏縁まて外殿

ハおまト淑姫天の内調度を内覧ゝり

四日西堀先ハ弓所土屋源四郎西面子源太郎

西典寄合伊丹大猪勝役子弱次郎信晃もゝり

父死して家つくるもの八人三河国矢作橋助役を

ト内義能登守改環象士書く銀吋ふくハ相織

そく物ふ動定組所ハ准ゝゝ家嘱義茂右衛門

左親木殿ゝ多る又内森能登守政親第士三男矢作橋の西役をしにゝり

銀吋ふくおれ

五る内誕辰の住係ゝしゝ家法衆奏者番布

右以上の以下のもゝふ内祝の餐酒を給ふ

子孫より田一反奥まて申樂を催す絵馬俊成卿
筑紫宗清俊寛卿あ宅融附祝ひ狂言曲舞狩
山伏紺美十王代淀狐花盗人伊の豊祝ひを免
さるる
六日中川番たり巨場求馬助利喬火消役と
なる杉手あ藝書面覆使して新茶をうては
つる
八日東叡山

浅草院殿霊廟より戸田采女正氏教代参し三緑
山
真恭院殿霊牌所ありあ為参詣信成代参し
大納言殿より水野出羽守忠武代参戸田
まより三家のうち使して西尾侯
九日吹上の園より出遊ありまつり田安邸より
うきるる巳日淑姫君入輿まより西尾侯
て

所所より杉平伊豆守信明して所太刀一腰紀州
国右吉所刀英法国正利所小腰長和泉包清所業
壷瞑人丸所伽羅縅紅白五十卷紗綾紅白五十卷
大納言殿より所所御書右友して古今和歌集
紅白ちりめん五十卷千鶴
臺の上より所文臺一所硯箱一ちん免人紅白五
十卷千鶴そくさくさくさく
十日聖堂再建より本多伯耆守温恭又七郎

親憲杉平近江守長員城左京亮亦方小出信濃
守英鈞ゟ助役のゟ所ゟ黒田甲斐守長恵
杉平駿河守親賢稲垣信濃守長煖秋月山城
守種徳本多伊豫守忠脩鍋島和泉守直正八在
邑より強勢して傳ゟ
十一日代表辻右太郎守貞美濃郡代とゟ布
衣の士ゟ加ゟ
十二日三緣山

惇信院殿靈廟ヨリ安藝國ヲ信成代ニ

十四日

文昭院殿靈廟ヨリ伺ヒ之アル

十五日次の相撲傷の如し　同部兼濃守毛備

參觀に森下野守快温寄合小出主水有法

多大学助詮發媒加番ニ　神保弥右衛門

郎並知大関伊豫守增補子吉左郎增陽ハ

てゝ　まゝ松平土佐守豊栄同ニ子ハ

松平下総守君和二丸内殿向その他諸侯の助役

つとめしより時刻十五松平土佐守豊栄同

子ハ時ふゝ三十分ふ日光ヨリ利根川越ヲ佐尹参詣

十六日光ヨリ帰ル

子仰付ゝる

十七日紅葉山

御宮ヨリ安藝馬守信成代ニ大書玉忠十郎

同重義その当所ヲ為ゝる

十八日小芳清医医宗須玄竹富医村山玄重附
保富瘍医となる
十九日奥医医吉田快菴形摩子栄菴形修奥
瘍医津軽素伯健寿貴子良策建喜桂川甫
周国瑞貴副甫漢国宝あらたよめし出さるお
の　二十人口下さる
二十一日重陽の佳儀に附ふくさくけしものは
西丸内書をくるふ西城より八幡書あり

二十二日大成殿再建の上梁なり松平伊豆守信
明堀田摂津守正敦及ひそのほかにあつかりし学
者列侯棟札をハ
征夷大将軍正二位内大臣再建と記さる
二十三日弱塔壁の回りを放鷹としてあらを
ら所西巻ハ弱なり少老堀田摂津守正敦及ひて
回り〳〵二相場〳〵
二十四日東叡山

源流院殿霊牌所ニ戸田采女正氏教代参ス
本門寺内墓ハ内例図神田幡ヲ長貴代参ス
東叡山
孝恭院殿霊廟ニ少老立花出雲守種周代参
ス
二十五日濱の庭園ニ出ラレ[illegible]ふ内相員略若干
あり去レハ成のとき射ル番士ハ同ふくうま
ふ

二十六日二丸留守居小野四郎五郎ニ宮老免
シテ寄合ニある傳役あり二丸御殿向その他
修理助役ヲシ相平出仕ヲ豊栄相平下総守
和泉士当番相差行ル
二十七日吹上ニテ騎射ヲ覧ル出ル去レハ
の時射ル番士同ふく役ふ
二十八日ものふ騎射内覧ありしかるその師
寄合小笠原平右衛尉常方ハ同ふく役ひ射ル
の

諸藩士小普請のもの二十五人を給ふ
二十九日小姓組根岸九郎兵衛肅父死前
然肅病後喪を難儀たるを以て代と
して火災の打続きたる殺し与力同心を指揮す
ることあり
十一月彩色用ゐる相模伊のめし森下野守快
温純封の時ふたつ黒田豫州直温大関手太郎
君移交代寄合木下辰五郎俊隆初見しまる
者ふ吉原よりより淋姫天法調度をもつてきたる面
書店山田源吉を利注そひて事を回しに
より尾邸より使来りに
二日淑姫天の出資裝をもつてきたるものふ
よ回し
三日寄合岡部主税美濃中川の衛とある寄合
大久保右京教長子宗三郎教包もしめ父死し
て家法くもの八人

四日夢ゝ淑姫君の御供をゝくさゝる
五月雨の頃のさゝ〳〵さゝる大番与阿福王新右衛
門信平病免に相平筑前守富廣小しゝ供番
〳〵屋敷ふものあり五人
八日東叡山
浅明院殿霊廟より相平伊豆守信明代参に此
内猪熊蒔絵石硯箱田城右衛門延勝子弥三郎
延寿田中十左衛門子孫吉〳〵五郎仲免し給
ふ
九日西城相模守殿建部大和守廣般老免〳〵
富会〳〵ある時ふ〳〵三河ふ相平備後守富賢父
被仕あ藝者重晨八〳〵あ三人〳〵使番〳〵屋敷
下さゝる
十一日聖像近度ゝり家者馬名部大捕廣
寿代参に御太刀一腰金五萬さゝる供番〳〵
相平阿波守治昭細川越中守斉茲ゝ屋敷ふ

十二日三緣山
惣信院殿靈廟ニ戸田采女正氏教代参ニ西城小
姓組赤井主計直盈同ニ与ル
十三日松平大和守直恒ハ〻ゟ使番ニて被下さ
るゝもの八人ハ十五日淑姫君ハ入輿ゟ
三家のゝ〻ハ免罷ル
老ハ暇〻退く
十四日小姓組ゟ部式部信滿大番大久保清
右表ハ右寄共ゟ老免ニ小普請ニ成る席金
御ふ
十五日吉辰ニ付ハ淑姫君ハ入輿ゟ
西興源松平伊豆守信明貝殿の役ゟ前駆ゟ
信成供ゟの少老ハ花畠ゟ程同ニ
る松平弾正大弼徐ハ迎ニ
牌ハ西ゟ輿ゟ厨所前ゟハ少老ハ例の
奥ハ右寄組ハ西ゟ殿ハ奥表座所

回廊ハ法入輿の通りまつり動室の東玄関前ハ
八淄侍従家有百侍奏者番前の百郷郷侍又
子芙蓉の百のうち大番書院小姓組の三
書院林大学頭衡新番院中奥小姓同心書士表
右筆中門内外ハ布衣以上下乗橋ハ番衆の
大名父子列座しおしらひてのちまつりの
有り篇老ハ酒ハ辻固の儀ハ同し又供奉の布
衣以上及廣敷番の所ハ中の百ハして餐宴た
まふ

十六日ふ淑姫君ハ入輿添書ハ主し内祝と
して三家のうち始めその他のうちまつり
の日家同しまつり紀伊中納言治貞ハ水戸中
納言治保ハ名三種を行徳川右黄門書備ハ
水戸中納言治紀ハ名二種二千疋俊祥院尼（水戸宗翁ハ蓋中）
加賀書治脩同し二種五百疋さい事らるそ

の他万石以上のもの、格代は恵そへて賜る
尾張中將宮朝より当宮原山田勝家利勝し
てゐる八十の餅十種十荷を法ハさる宮朝に
より八家士して回しをなしさる家士ハ
祝酒吸物を下さる更ニ巻物を給ふ又太田備
中守資愛して
大納言殿へ三種二千疋松平伊豆守信明して
御墓所へ回しをなさる西城より八の所

御墓の上ニ回しをなさるる又
御所
大納言殿ニ女使して回しをなさるこの
日松平左兵衛督信明ハしめ供番ニて宿給ふ
ものの九人

十七日紅葉山
御宮より松平伊豆守信明代参ニ日光門主より
八新茶菓子蜜柑を給はる
十八日木下川の田より放鷹として御覧
ゆ由巻鶴二羽あり淑姫君のうまもり場上当
舎海付して昆布一束献ず
十九日淑姫夫婦一緒に入御ゆ
りて朝とく戸田采女正氏教して中将殿朝ゆ
ゆ銀五十枚巻相十
大納言殿より八銀三十枚巻相五三種二荷代ゆ
十
巻の上より八銀三十枚巻相五三種二荷代ゆ
ハさき淑姫夫婦ハ
御所より銀三十枚巻三十把三種二荷
大納言殿より八巻三十把三種二荷
御所より巻五十把三種二荷西相の方ゆ

御所より弧三十枝緒五十把
大納言殿より緒五十把
堂のよりもろ〻三十枝巻相五三種二荷
聰院尾張宰相殿の方より
御所より緒五十把二種二荷
大納言殿より巻相十
御堂所より巻相五二種一荷ハ
同しくにより西塚より八ツ側曽我伊賀守助

遣して
御所より剱一振をそ〻ぎ尾中将殿ハ浴間へ
まうのぼりは弟西あり
御所へ真の太刀宝壽丸殿ちりめん十巻緒
三十把
大納言殿へハ真太刀助真ちりめん五巻金
二枝敷きそ〻ぎ御刀傳国宗御鎧差刀重
ゟハさそ又

臺の上に紙三十枚綴二本把三種二荷中將方よ
りハ三十枚壱把五三種二荷をくさくさ
木書院ハ出ひ尾亜相宗睦ハ淑姫実母八
輿添をうまくしをゝ謝しやくれてまうのほう紙
ひたいの太刀国吉の刀来国光の差添紙五十枚壱
把十をらをゝ壱面ある丙盃をつかハさる
来国俊の内差添をひうきをてい紀伊水戸南々
内記面ゆり美よ家士ハ相うまう又回しる

祝しく日門より二種一荷あ樂心院の宮ハ二種
一荷をくさくさこの日酒井雅楽出羽君道ハし
め十八人へ供番もて屠蘇ふ
二十日松平伊豆守信明大成殿の再建のこと
をつかしをもて時ふゝ七をくさひ少老堀田
摂津守正敦八回しるまうまう奥まて四を飾ふ
さりし十八日ハ速のこと鳥射し書院番の士
一人時紙下さる赤の東玄の牌須より大面大

雷数ヶ所へ震ひ
二十万ばかりし十九ヶ淑姫実まして本妻一
つゝきゝし西祝として三家のうゝ仕
して鮮鯛をゝゝきゝ系
二十二ヶ不吋の朝倉ひう松平紀伊守治義系
親ひ松平左衛門尉ひ形部ましめて又一ヶ系末
下宮太郎利徴家ひまゝを謝して立ち秋り
ものひ長濱を以朝陽系河内守昌姫捕吹

を以秋元年人保ひ朝系濃ひ又大蔵ひ稲葉
美狭守彩伊子年人彩存央濃殿大炊雲八家
和泉嗣会庫義流小納戸保東木工左衛門昭弘
子庫三郎政真土屋傳四郎正方裏嗣雄五郎石
野傳吉博正吉裏嗣市之丞正吉雪分言力
武部長氏子亀五郎八しめ初見の礼ゝるもの
多ゝ奥まて八松平伊豆守信ひ淑姫実入輿の
子国りゝゝりゝ吋ふく十少老三花面雪守稜

因同じくすゝめて六位の位に位記を治義朝
給ふ
二十三日尾張大納言宗睦卿淑姫実入輿渡を
うきさうし十九日内裏面あり懇ろの謝として
まうの日〳〵京中將兼朝臣ハ松平弾正大弼徳川
をして同じく謝しきらに又聖聽院尼よりも給
物の謝として使者にて陸奥國象の牙を献ず弾
正大弼君薨落よりも殺仕し子河内守忠誠

は二万石をつゝしめらるこの君薨ハ布哉中書
君如ら長子まして寛廣四年七月彩ら初足しき
り八月家つぎそのみを叙爵して弾正少弼と称し
天明七年七月十五日少老となり八年五月十五
日は例用人は格し従四位下はすゝみ大弼に改
名寛政二年四月五日宿老は准せらる五万石の
加恩行りて後て二万石となり城主格なる
三年十二月十五日侍従に任し十年十月二十六日

多病なるより職を辞し旧邸を復し事ふ致仕し
て乃ち莊餐し水菊と号し文化九年十二月
二十日年八十四歳にて去し九る大覺寺門跡
迄化まする
墓の上表は竜らを系
二十四日東叡山
寛茶院殿堂殿まで老京極倚前守源久代
系に留守居曲淵甲斐守景露数年の精研を
懐き遂に三万五千石の加恩ありて寅祿二千
石となる又大番頭淵野辺佐渡守長敬殿府城代
となる十六の日
墓の上事ふるはいとる解さ系
二十五日の戸務千代の方餐並まする朝おく
戸田采女正氏教して縁二十把一種千匹をくら
きる
大納言殿より八の殿お相手お友きいら一種千

匹

臺の上より同じ中將の方へハ

右御所より一種白足つゝ

御臺所より八一種黄門の方へハ

三御方より一種四ゝ有りよて右ハ御うの

ゝり謝しをら又勢千代の方ハ似して太刀

馬代一種白足ハ一種白足ハ左ハ

ら

大納言殿

御臺所より同じ大蔵板東左馬つ書留その

与所為ゝ老臣ハ原二つ殉ふ

二十六日動定西村左太郎武邦武郎右方郡

奉行ゝ有る

二十七日上手素の遠放廣ゝ所出発略三相

麦嵯一相有り

二十八日先ゝ岡部武義左兵衛安徽西城持弓

頭となる寄合久世丹後守殿民部子中奥書平
九郎廣才秋山十右衛門つ西亜子三四郎戸川主殿
村真う子大次郎あ章有小姓組与頭兼稲垣
義九郎昭廣孫ノ丞助右衛門ハしめ父跡仕し
家ハくるもの十八人さりしハ成のちよ為射し
富士五人ハ時郎うまふ所国代牧野備前守
右精大坂ハ城代松平右京大夫殿和ハ殿仕し
所を給ふ

二十九日陸奥国湯長谷領主内藤政醇
編率をしの嗣子あるよりより永野左近将監忠
昇五男寄こ亜殿瑞をして封をもつり所領一
万五千石をつかしむ忠の政編ハ有因情ち政醇
四子ハして天明七年十一月五日兄政貞う後を
ちり初名を岩之郎又新三郎といふ寛政二年十
一月十五日
文恭院殿ハしめて謁見しその年十二月新ち従

五位下に叙し主殿頭となり同じ三年二月十六日田安門の成命をうけ同じ六月さしめて勅封の時をまつり同四年八月十日時の目付上田はしめて

潙昌院殿七回忌の法事をまつり同じ山の寺護持いり同じ五年四月廿七日阪崎書院口加番となり時の年九月廿七日

若王山王宮寺の供奉をうけ同七年四月二日日光山祭祀の事ありとなり同十一年四月二日半蔵口の警衛この年十月廿五日車をしなり二十七歳出しニ十七日上方筋の巡検のことなる

射しー小姓組書院番士四人は時ふく殉ふ

十二月新月あるを相撲傷のめしー水戸河内守

謀封徳しを訪し太刀金巻拍さくく信倍来巻

布をまり入院を謝に小石川薬園を出る岡田

左門君政老免し金殉ふその子小十人兎ゝ助

君様父の職をつぐ此日三家の方々へ仕して
明の日申樂為きうるはまりまりの行り観覧
きうる）しよりを作つのはさる家
二日淑姫天満入樂源さ〳〵きしまりは祝と
して散樂ひう三家のうち〳〵もしめ万石堂上
父子その他西堀義仕のうちうまて見るるを
先きるまり大廣寺おうまひ伺公の面〳〵さ
つてきうへまりて樂始ひつおうを待ふ能組ハ
（少老立花出雲守種周舞臺に出て）

箱三番更杉竹風流閑口祠曰夫お生のかゝ怪く
ちまりかりきる姫松の小まつあまゝよおひて
つてきうふる今代のさ〳〵八目生〳〵うまる
時とうの難波田村羽衣石稲荷玄金札狂言
二番未塔ういゝお樂の中ま食籠をみふ又
奏者番舞臺よいて〳〵申樂ゐに唐織の附祝
（煙頭せゝきと又）
要御をさつ〳〵市人も居うるをゆるさきし
かい町を杉今して酒菓餅をうまふ

三るゝこと大成殿再建ありしより林大学頭
衛門尉をもて勅宣を石川左近将監に
房俊朝臣の奉行神保伊豫守長光目付小長谷
和泉守政良をのゝ奉行して殿ふたゝび殿ふその他所所
殿物差行まゝ香檀門の額を書をし古学
所詰のもの祝下する儒者のもの時ふゝ給ふ奥
をして同し古学与頼近義左衛門孟卿同
しくまたり時ふゝ奥右学二人張下する小者語

村上大学茅雄中奥守ゝ又そのふ内解食
俗の謝としてこの家ハしゝ免その他まうの者老
ロを渇し退く
四日演園まゝ来る御相見賜若干ある品
物の唐貴俗のめし
五日使者大河内若狭守傳西雄先ゝ間
所ゝある夫酒殺花房玄蕃頭子仙法師始
免父死して家つくもの六人

六日寺ふも蓮華の座賞因よ回しまりし四
日出球の時寄射し書士時ふく納ふ小納戸
弱井但る寄住費病ようり奥筋出ゆるし
有て寄合ようる老臣当ては巻の賜を給ふ
七日淑姫実出入悪のるをりし留守原治井
因幡守君教曲渕甲斐守景嘉郡宝寺坊柳生
主猪正久通後閑田人中務伊与守彩敬目付横
田十郎兵衛延杉蜂屋源八郎成宝納戸頭保東

長兵衛祐秀もしめ寄合小笠原平兵衛弟方て
の他所所のるうし及猪野裳川院惟信右京
の掌て鍋相差あり阿部伊勢守山倫稲葉
丹後守正祐 諱 屋二つ給ふ
八日東叡山
浅草院殿霊廟よ出る薩摩国久住の領主宋津摂磨守通政殺仕して
の子郎兵衛政懐をして所領一万千石たり

む以面目ハ有越中守政崇ゟ長子ゟ養して明和
三年十一月彩ゟ神尺ゟ回ゟ四年十月十ゟ
襲封ゟ十二月叙爵して右相ゟ称ゟ天明
元年九月十九ゟ播磨守ゟ改ル五年八月十ゟ
神ゟ奉行ゟの任時ゟ六年二月ゟ板倉加
賀ゟ守ゟ八年四月ゟ日光ゟの祭祀ゟ有
ゟ定寛政元年二月十ゟ半蔵口の門成ゟ
ゟの守備門の守ゟ有ゟハ十年十月ゟ

お用国長瀞ようゟ奉仕してのち文政
二年六月十ゟ辛ゟ墓七十留守原番河野部
右衛門通秀先ゟ尚所ゟ勤定中村八大夫和
別代ゟ有ゟ
九日大番所新左衛門河内直規病免ゟ先ゟ尚所
池田雅次郎政貞火賊捕盗の役明のゟ十二月
近勤ゟ有ゟ奥ゟして少老ゟ所を下さ
ゟ

十日寄合久世三四郎廣孝蔭同式部朝中奥番
久世平九郎廣方中奥小姓となり而小姓組番所
勤らる寄合三枝土佐守義央災巡視となる小
姓組桜井七右衛門政濃小十人諏訪源三郎郡
紀とも老免し小普請より入襲仰付のめし而
丸小十人内田新十郎榮進同一与郎となる小
納戸平井五郎兵衛寛之病免して寄合まを
らる

十一月牧野越中守貞喜ハしめ二十二人一度給
ひ又松平左兵衛督郡ハ初て供奉して二を
給ふ
十二月三緑山
惣位院殿豊廟ま戸田采女正氏教代参す室入
あきハ三家のうち〳〵所より〳〵何ふその他の堂
同し西起居候し老臣ハ謁し退く
十三月三河島の道ハ有〳〵ハ所奉暇二相

所一羽ゟ掃塵使賀俵の如し　播州河内ゟ出
候ハしめ六人へ所相渡ゟ日門字入を候し
蕃薯を献ゟ
十四ゟ小十人平塚喜三郎殺親同し与助ゟ
十五ゟ月次の炭田ゟ同し　播田大義大捕出ル所
郡播磨ゟ山苗始め糸親のもの八人使番幡屋七
名来宝暦後河国府の同付ゟ帰り福八内
義ゟ遠政孫米津勘兵衛ゟ政懐ゟ封つよし

ゟハ太刀金巻抱ゟけ御し　ゟ濃勢尾三国
及東海道川渠潅利助役ゟし　義ゟ和ゟ疑
杉平上総介富政杉平釈ゟ進呈ふく三十伊達遠
江ゟ村喜同し　ゟ二十戸浦冨喜四郎杉平丹波
ゟ光壮本多隠岐ゟ康宗加賀遠江ゟ泰富伊
東藤三郎祐民同し　ゟ十つゝ福ふ那須のもの
三人糸福八伊保組目別函機を御し来本を
献すゟし十三ゟ内藤の和ゟ射し書院の書

士一人附属を下さる小性組戸田七右衛門五年
老免し小普請に入る後金を給ふ
十六日けさ昭天院生誕あり内後ハおうしの
方墓目
御墓所用人中沢伊豫守殉死矢頃ハ其子小納
戸三左衛門に相続乱刀ハ小納戸川右十郎右傷を
り殿府城代溝口主殿長殺任所に赴くよ
り金百両恩賞あり阿部播磨守

四人ハ各を下さる又供番として堀田
大蔵大輔四郎ハ三人一同に給ふ
十七日紅葉山
御宮に代参仕る三度ハ屋敷ありて
本丸西二丸書院番内藤甲斐守西丸新大番
所ありて
十八日浜の御殿にあらせられ内御和歌を
御披見生誕ありて二条のうしに供奉ありて

りを給ふ淵詰言家法衆奏者寄諸寄諸物所
布衣以上まうのぼり老臣は淵詰寄は
日光門主近く山王の日ゐるまゝまゐる家大臣
右京大夫基之くして阿弥は枝葉を生ずる家
杉平弾正大弼臣四位上は敘し侍臣は但し杉
平伊与守治好は少将小豆原右近将監右苗は侍
臣弾正大弼臣四位下は敘寄し龍を助義
郎形部少輔臣四位下侍従は敘寄し龍を助義

臣は掃部寄なを郎形部は尤原大夫と称し杉平
仙千代康人臣四位下は敘し越後守と称し臣五
位下は敘するものの九人黒田勝寄吉臣は大和守
稲葉麟太郎直知は紀伊守九鬼仙次郎陸国細川
興杉立政共は和泉守杉平内蔵右惠は宮内少輔
大関千太郎右稲は越前守丹郎日向守猪刷子六
尤赤つ猪愛は下野守西城小姓組寄沢阿部大学
西条は志摩守中奥小姓杉平弥門西下石見守杉

平常日信孫ハ英俊ニて秀抜の士よ加へら
るゝものハ火消役関左近盛平巨坊求馬助利春
傳兵衛土屋左兵衛正倫林右近丞直英玉虫八左衛
門千茂重隆兵与ニ杉平助大夫宗真西塚小姓与
ニ小笠原権九郎信昭 信 糸井重計重盛佐藤孫
四郎川仲右衛門ニ服部彦七成則等人正
四隅子重殿ハ四の隅ニ立ら給ふ
ものなり

十九日申樂あり其の樂組ハ箱王丸奥能 老松 狂言
妹寺烏帽子打阿漕乳狂言麻生後不立ち大
蔵与ニ太田四郎兵衛資方老免ニて小舞ニ
ふ重編ふ
二十日日光門ニ山よりの風ふきゝ
て登ぎ給ふ濃勢尾三国及東海道川
渠渡利助役つとめ一箇堂和尚ニ言ふ窺伊達
遠江ニ村寄杉平上総介高政杉平紙ニ近戸作留

壽西寺本多隠岐守康宗杉平丹波守光壮加
茂遠江守秦泉海伊東修三郎祐氏家士等組同
相織御手之者共ハ西丸小姓等丹後守之亟叔爵
ハ伊豫守と改め小納戸同寛之亟氏寧ハ
茂郷左衛門惟久主花大吉祥郷東條小弥太
山平左衛門盛春押田勘摩藤長人石出九郎
猪貴警巣伊左衛門清典平塚幸法郎勘長関
信義信保千村源左衛門彩兄石谷三郎清明杉平

又太郎猪貞中澤右郎彩政法三左衛門宮澤弥
五郎廣道西條小納戸同沼辺水意英協力千郎
長冨朝倉織之助豊昭彩殿七三郎長春太田
博之亟昭全前田勘人孝思久貝吉三郎西澤布
右の列ニ加ハる
二十万小松川の田とハ故實ハ家康公
寵愛ハ家ハ家柳の田祝として云ふのうち
始め万石上ハ本新ちより後の如く所領を減

に西堀つゝ回一回付矢部彦五郎宛令記録
のゝ子にゝ重彦ふ右者ゝ回一
二十二ゝ時阿部ゝ太田掃部ゝ資順表ゝ
澤ゝ延資ゝ初見に及ゝ面に伊達内記方
ゝ子ゝ水戸武西條小姓組与に赤井ゝ計ゝ盛
子弥市郎直好徒に戸川大学達ゝ子左京亮ゝ
初見ゝ多ゝ者ゝ多ゝ例回部ゝ情ゝ
先ゝ尾張亜相の病を問ゝ日門ゝ使

ゝ檜ゝ堀上ゝ回一
二十三ゝ誕生ゝ七の祝ゝ日光
門ゝ使一種ゝ献ゝ生出ゝ一種ゝ献
献ゝ出生ゝ方名ゝ
五ゝ姫天と称に墓目の役中濃伊豫ゝ形数簡
戸川備十郎正倫矢面中濃三左衛ゝ形改屋
所ゝ伊与ゝ形数備十郎正倫八銀
三十枚時ふく三左衛ゝ形改八回一二十枚二

を以て
御所より
大納言殿江一種千匹御使い被遣旨仰成
大納言殿より
御所へ同し西使の西野内羽右衛門
大納言殿より西出生つ西麻衣一重紬三十把
一種ハ是西使ハ御羽右衛門白黒毒侯
その他御理の通り
仰付ける切神保伊勢

当長光目付矢部定謙五郎定令部定吟味役
犯田十郎名儀形事をの〳〵重罰仰付られ候の
事紙面差略
二十四日東叡山
寺泰院殿霊廟より少老井伊掃部頭少補並朗代
参代部定吟味役犯田十郎名儀形事長崎へ行
とゝ為る五千石加恩有て実孫三万石ゝ為る筈
府城代近藤石見守用和子継殿助用役部定

を行ふ重長為をもつて杉平右衛門尉武強子龍五
郎永町を以て三浦伊勢守の子五郎次郎三
郎通函丸先を為に所望の宅源左衛門治方子四郎三
郎源寛をいしめ父死して家つくものこと十六人
此日尾張大納言宗睦のうきをきしらい中将為
朝卿のもとに宿老戸田采女正氏教して吊慰
をなす又紀伊中納言治貞卿より書院番所あ為
伊豫守直久を戸中納言治保の中将治紀のもとに

小姓組番所佐野紀和守茂行杉平弾正大弼俊
為杉平杉坪書茂為ハ使者倉橋内匠久尼して
問をなすよりて音樂をめぐらす言賞
築ハ三名あり
二十五尾郎の子ましより紀の為卿略光雅亞
三名中のもとに西山ハ何ら紀和芳門ハ使
して問しく何ふ又尾中将為朝卿のもとよ歩
為路を為信楽して弧る杉檀嶺としてつかハさる

西城より八五十段法供八永野和田吉右衛門
より十段多
二十六日 東叡山
玉川院殿霊牌所より例大久保豊前守右温
代参に小姓組番頭永井大和守直孫書院番頭
寄合指揮をして本多常刀政房小姓組番頭後藤
修理信敬同し肝煎なる小姓組伊坂万助外
壱人を伴ひ武蔵記録書写してをりしが八
時御をうまる
二十七日 江島山
霊廟より出ありて大番竹村弥三郎家清なる与
頭と有る
二十八日 あとに相撲例のめ一度を信不教する
もの小姓組番頭本多常刀政房八大隅守より任
し長崎奉行紀内十郎右衛門尉八豊後守より任
に亜祝儀を賀に出もものあり

二十九日小納戸頭取大久保主殿殿御使者
書取を以て西鷹の子八重近の如くまいる〳〵
を以て西條を以山木織部殿四丸書院番国
八郎兵衛殿孝道共に二丸留番となる後部殿
八郎兵衛殿孝道布衣の士に加つらる小普請を以
石野筑前守範堯上林林汐足櫓その他修理
掃祝さしたり時〳〵三又西指櫓指物石
垣その他修復掃祝まる時分三日付伊久留

尤京信近動定吟味役大久保内藤右寅八回
〳〵二を給ふ所所の事給物差あり長崎を以
紀国豊後守彩常回〳〵二給ふられい動定吟
味役の磯〳〵おをりしを褒給あり留
守居弱木松大内紀四郎永八生殿のをりし
をり回〳〵二給ふ伺大久保豊前守右溢
〳〵尾張中将宮朝臣の喪取を問さ〳〵(注)桜重
を〳〵

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan